

新宮山彦ぐるーぷ第1838回

## 太古ノ辻・記念道標「これより・大峯・南奥駆道」の更新作業

◇実施日：平成27年9月19日(土) 快晴

◇参加者：山上皓一郎・木下嘉彦(小仲坊待機)、沖崎吉信、川島 功、前田 正、樋口義也、豊嶋 寛、濱野兼吉、玉岡 明、中前 偉、畑林秀味、畑林清子、生熊敏男、生熊千満子、橋本 梓、石橋陸子、須崎誠久、村吉光夫、杉本俊也、山口泰宏、青木宏充、梶野照雄、三井幹雄、河野芳宏、大門健一、辻 正博、越野智子、  
計27名

奥駆葉衣会の前田勇一氏の南奥駆道再興の遺志を継いだ新宮山彦ぐるーぷは、千日刈峰行をS59年(1984)6月から取組、S61年(1986)6月の三年をかけた一巡目(延315日)を終え、南奥駆道が再興され、その再興記念としてS61年10月に、此処太古ノ辻に「これより・大峯・南奥駆道」の記念道標が設置されました。

設置後29年が経過し、標柱の腐朽も進み更新することになり、更新にあたり昨年より村吉さんが、防腐剤高圧含浸処理松丸太、道標のカツラ板の調達と現案内道標は玉岡憲明氏の奥さん故節子さんの揮毫で、その字を写真に撮り、同一字体としてカツラ板への彫り込みと取付細工がなされ、仕上げされたものである。

玉岡憲明さんに見て頂くために、9月10日新宮で組立て、玉岡さんに出栄えを事前披露し、本日の更新作業となった。

この記念道標は、当ぐるーぷの活動原点の道標であり、一大イベントとして多くの参加者で盛り上げて頂くと共に先人達の苦勞の一端を知って頂きたく企画しました。

本日、昨日までの雨もあがり快晴となり絶好の作業日になった。前鬼林道ゲート前(8時集合)へ新宮組が7時半に着くと、朝3時出発の西宮市・大門氏、軽トラ車泊・杉本氏、きなり湯素泊り

の青木・梶野氏、香芝市・山口さん達が既に待機されていた。林道ゲートの鍵は、小仲坊のお堂外壁・屋根葺き替え工事を請負われた木下棟梁が、小仲坊から預かっておられ、五鬼助さんの了解を得て小仲坊へ車で乗入れ出来る事になった。

待機の間自己紹介等行う、程なく木下棟梁の軽トラ(同乗山上氏)が、道標標柱を積んで到着。道具類、道標関連積載車以外の車は、小仲坊下の路肩の広い林道に駐車。

お堂前で中前導師による勤行が始まる前に、定刻着の三井車(同乗河野氏)が到着し、本日の無事故等祈願の勤行をする。



9:10 事前組立披露

前鬼林道ゲート前にて

小仲坊お堂前・勤行後

宿坊前で沖崎氏から本日の作業予定と役割分担があり、標柱(径18cm×長さ270cm:24kg)運搬A班(川島・山口・樋口・青木・杉本)、B班(沖崎・大門・前田・中前・梶野)。案内板(上辺100cm・横46cm:12kg)河野・三井。道標(7kg)：豊嶋、組立道具と機材；村吉、スコップ・ツルハシ・濱野、穴堀スコップ・ボール；須崎、標柱キャップ・銅板類；橋本、肩パット・ザイル等；畑林秀、みかん；辻、おやつ等；生熊・畑林。になり小仲坊8時半に出発。

A班が標柱運搬時は、B班がA班者の荷と二人分を担ぐ。小仲坊から本谷を横切る迄は、登山道も広く5人で運べるが、本谷を渡る際は肩掛け布帯の二人で運び、渡ってしばらく行った地点で

B班と交代。

やや緩やかな中州樹林帯の登山道は、力の強い中前氏は直接肩で担ぐ。岩の合間には栃の実が多数落ちていて爽りの秋を感じる。次第に急傾斜と高い段差道となり、また木製階段では、肩掛け帯の二人で運び、疲れも考慮し早めの5分間隔で交代する。

二つ岩手前で、HPで今日の行事を知り参加したという越野さん(檀原市)が、山上さんから「ゆっくり登れ」と託ったと追着く。

二つ岩手前でおやつを落下させ、杉本君が拾いに下り、回収するハプニングがある。二つ岩には10時に着き、女性陣からみか



宿坊前で作業指示



標柱運搬A班



標柱運搬B班



二つ岩で休憩



支谷からの階段



太古ノ辻手前急階段

辻氏からは、ミカンの皮を捨てる熊等の動物は好物なので寄って来るので持ち帰って欲しいとの忠告があった。

尚、先般、関ヶ原尾根で熊に襲われたとの事、今年も平治宿でも目撃されており、冬眠前の活発な時期になり注意を喚起したい。

二つ岩からトラバース気味の登山路が続く、二人での運搬となり、班別運搬が機能しなくなり、A班主体の標柱運搬となり、とりわけ杉本君が頑張つて下さる。

梶野氏は、ヒメササで足場の見難いカ所を鎌で刈つて登つて来られた。小仲坊から2時間半と予定より早い11時10頃に太古ノ辻に到着した。

沖崎氏から玉岡さん達の記念道標設置の報告書が配布され、作業予定と指示があり昼食。

快晴で陽ざしが厳しく、木陰を探して各々昼食をとる。木陰では涼しい風が、汗を吹き飛ばし爽やかなひと時である。越野さんは、釈迦ヶ岳往復へ出発



太古ノ辻到着



到着後の打合せ



取替後の柱固め

昼食後、青木氏リーダーの下、女性陣は深仙宿往復へ。村吉氏主導で標柱に案内板が取り付けられる。又、松本板金さん無償提供の銅製標柱キャップ及び地面境界付近(地上から2m)

に銅板が巻かれる。

その間に旧道標標柱の周りの石を除き、前後左右にゆすり、3・4で強引に持ち上げ引き抜く事が出来た。

大門氏は横から落ちた石・土を根木氏提供の穴掘スコップで掘り出す。

新規道標標柱を旧標柱穴に入れると、ぴったりの高さである。

穴隙間を埋める小石を皆で捜すが見当たらず、平たな石をバーレル等で割り小石・土を交互に入れ、突き固める前に梶野氏に垂直レベルを確かめて頂き、生熊氏などが突き固めた。

想定した穴を掘る作業が殆んど無く、更新作業がはかどる。

標柱設置後に行き先案内板が取付られ、更新作業が12時半過ぎに終了した。

旧案内板は、余分な標柱を切り落とし、持経宿に設置のため、持ち帰ることにした。旧案内板下ろしも河野・三井氏にお願いしたが、下山時の方が重い荷になったと思われる。

更新作業参加者で沖崎さんの奥さん揮毫の「太古ノ辻・記念道標更新」の横断幕を掲げ、新規道標前で記念撮影。

深仙宿組も下山し、本日参加者全員の記念撮影をして、それぞれに荷造りをして、13時過ぎに太古ノ辻を発つ。



更新作業者

本日の作業者

太古ノ辻下山準備

途中、二つ岩で大休止をして小仲坊に下山。早い方は14時4

0頃に到着し、お堂の廃材、廃トタンのを運搬を手伝った。

人数が多いだけに後片付けも早く終り、遠方の方の帰宅もあり15時半に作業手伝いを終える。

小仲坊のご好意によりジュース・缶ビールの差し入れがあり、ありがたく頂戴する。

今行事への協力御礼と無事帰宅を願って、ここ小仲坊で流れ解散とした。参加者の皆さんお疲れ様でした。

尚、木下棟梁他3名は、お堂の屋根・ルーフィング張りが略終えていて、今夜宿泊して明日も作業されるそうです。山上さんは棟梁他職人の手伝いをされ、忙しかったそうで、一緒に帰新した。

今回、辻さん、越野(15時頃下山)さんは、初参加されましたが、今後参加頂ける雰囲気でした。

### 行動タイム

7:30 前鬼林道 7:50→8:05 小仲坊 8:30→10:00 二つ岩 10:20→11:15 太古ノ辻→昼食→11:40 更新作業 12:35→太古ノ辻 13:05→13:45 二つ岩 14:05→14:45 小仲坊 15:40 解散。

### 寄贈品

村吉光夫：道標の調達材及び塗料・機材など。

松本吉殖：標柱銅板キャップと銅板。

肩パット；畑林清子、大江加予子。

(記 川島)